

長田下地域 振興会だより 第29号

2017年(平成29年)7月27日発行

長田下地域自治振興会 平成29年度総会 4月16日

当日は、多数の参加(出席49名と委任状31名)により開会。先川市議会議長を迎え、「市議会の活動」「道の駅情勢」「集会所に対する市長の考え方」について講演いただきました。

総会では、前年度事業実績報告並びに収支決算報告・決算監査報告に続いて、平成29年度役員改選・平成29年度事業計画案並びに収支予算案が審議の上、決定されました。

自主防災会についても、同様に前年度活動報告・収支決算が報告され、平成29年度事業計画案・収支予算案が審議、決定されました。

旧役員の方々、ありがとうございました。新役員の方々、よろしくお願いします。(担当K. M)



ふれあいの集い 6月24日 13時30分～

テーマ「介護保険制度について」

～介護保険って、どういうものなの?～

「かがやき」の職員さん3名(上岡さん・森田さん・河野さん)を講師に、25名の参加者で行われました。はじめに、「かがやき」のケアマネージャー(介護支援専門員)さんより、介護保険制度・介護サービス・要介護認定について、わかりやすく説明をしてもらいました。

説明を聞き思ったのですが、介護サービスの種類や利用方法・介護用品のレンタル・自宅の改修(市より補助)など知らなかったことが多かったです。「知らなかったら、損をする。」と思いました。ぜひ、もっと多くの人に、この介護制度についての話を聞いてほしかったです。

最後に、認知症予防の「ゴム・ダンス」で、体と口を動かすいい気持ちになりました。お茶とおやつまで用意して

いただきありがとうございました。(担当Y. H)



(上)「かがやき」の職員さん
左から河野さん、上岡さん、森田さんです。

(左)「ゴム・ダンス」です。

他地域元気活動見聞録 ～四日市役場～

広島市安佐北区可部の市街地に「四日市役場」が出現しました。そうです！100万都市のあの広島市に、なんと役場が立ち上がったのです。我々が安芸高田市は人口3万人を切っても市役所なのに。

何事が起きたのだろうか？と編集委員二人で見聞に出かけました。

すると隣にスーパー、前には車の往来の激しい街の真ん中に、築100年を超えるという古民家の前に「四日市役場」という看板が掲げられていました。

「えっ！こんなところになんで役場が？」と思いながら訪ねてみると、仕掛け人の会長と事務局長が待っていてくれました。すでに老境に入っている方々ですが、意気は軒昂。

呼びかけの方法は「この指とまれ」方式で、やりたい人がやる。

古民家は会員たちが知恵と汗を出して改造し、将来は福祉の制度も活用し、老若男女、地域の人の集いの場に。すでに麻雀台も誰かの手によって運び込まれていました。

会長曰く、「『昔は困ったら役場に相談に行こう』という小回りの効く機能があったけど、大きくなりすぎるとそういうわけにもいかん。せめてこの地区が誰でも暮らせるような困りごと相談場所になればええですがのう。『つながりがない』いうばかりではどうしようもない。自分たちでつながれる場所をつくらんとね」

裏に回ると、立派な庭園を挟んで納屋を改造した「フリースクール」が。すでに不登校の子供たちが、近所のおじさんと木工を楽しんでいました。

「ないものねだりをしない」、「あるものを活かす」は地域づくりの鉄則ですが、そのような知恵は灯台下暗し、私たちの地域にも転がっているのかもしれない。

(B. T)



「四日市役場」



「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える②⑩

今回は、長田6区徳丸にある『薬師堂』を調べてみることにしました。

この薬師堂は、迫能典振興会会長宅の裏にあるもので、昔から住民に信仰されてきた薬師如来が座っている貴重な建物です。薬や医学の乏しかった時代、住民たちは、薬師如来に祈り、病気予防や家内安全を願っていたことでしょう。

このお堂は、間口が192cm、奥行が200cm、高さが約400cmで、赤瓦ぶきの新しい感じのする、美しいお堂でした。敷地は150平方メートルあるそうです。記録板には、平成元年12月25日の新築年号と共に、多くの寄進者の名前が記録されていました。

薬師堂の改築は、古い写真でも分かるように、屋根の雨漏りなど痛みがひどいことから改修の話になり、地元の竹岡秀夫さんを中心に世話をされ、地域の方の高額の寄付金により、古いお堂のとなりに新築されたものだそうです。

薬師堂の中には、左側に高さ10cmほどの木造の仏像があり、右側には、高さ25cmの薬壺をもった木造の薬師如来が安置されています。どちらも制作年月日は不明で、言い伝えによると、左側の木仏は、神川さん横の三輪明神にあったものだったとか。しかし、確かな記録はみつきませんでした。

そこで、『薬師如来』（やくっさん）について、少し調べてみました。

くわしくは、^{やくしるりこうによらい}薬師瑠璃光如来といい、大医王などとも呼ぶそうです。この仏様の願い（本願）は、人々の病気を治して災難をしずめ、苦しみから救おうというもので、現世利益を与える仏として、古くから信仰があります。しかし、その成立の時代や場所などはよく分かっていません。日本では、7世紀頃から信仰され、以後さかんに仏像が造られました。奈良の薬師寺や法隆寺金堂など、薬師如来を本尊とする古寺も多くあります。

長田6区徳丸の薬師如来は、一体だけの仏を従えています。一般には、脇侍に日光菩薩や月光菩薩を従え、12人の神将（しんしょう）という守護神を従えていることもあります。たとえば、長田3区の線路上側にある「養康寺薬師堂」には、小さな12神将が安置されています。

竹岡秀夫さんや地元の話では、「昭和の時代、お堂の前で、みんなで弁当を広げて花見をしたり、子ども相撲をしたりして、とてもにぎやかだった」ということです。今は、住民も高齢になり、そうした行事もされないそうです。住民がせっかく力を合わせて造った貴重なお堂でもあり、とても寂しい気がしました。

(F. T)



現在の薬師堂



古い薬師堂



木造の仏像



薬師如来

長田下地域人物伝⑭

～中川和恵さん（6区）～



今回は、長田下地域自治振興会のふれあい前部長の中川和恵さんを紹介します。

中川さんは、この振興会発足からの役員として長年の活動を支えてられました。特に、平成24年から28年までは、ふれあ

い部長として数々の行事の実施や改革に尽力されました。

防災対応が必要とされ始めた頃、運動会に防災訓練を取り入れ、忙しい皆さんでも多く参加できるように行事の密度を高め、時間短縮を図るよう企画されたりしました。

漢詩・寒梅：新島襄

寒梅 新島襄
庭上一寒梅
笑侵風雪開
不爭又不力
自占百花魁
庭上の一寒梅
笑つて風雪を侵して開く
争はず また力(つと)めず
自ずから百花の魁(さきがけ)を占む

また、『ふれあいサロン』を発祥とする「ふれあい」行事での充実のために、「かがやき」、「駐在所」、「きれいセンター」などからの有益な情報を学ぶよう、外部講師の招へいなどに努められ、私たちも、生活向上に役立つ情報を得たり、相互の親交を深めることができました。

こうした、長年の役員経験とこれまでの取り組みの底には、次のような「地域への思い」があるとのことでした。これはまた、私達の願いと共通するものです・・・それは・・・「ふれあいサロン」での理想像は、時々行事でのふれあいではなく、地域での日常的な地域ふれあいが実現することなのです。地域の人々がどこかに集まって、茶飲み場で、漬け物作り話や料理自慢でのレシピの交換、または野菜作りでの工夫・苦労話など、本当に日々のつきあいができる「場」が、身近な地域で行われることです。振興会単位では、やや大きな行事になるでしょうが、日常では、もっと小さな地域単位でのつきあいができる場があればいいなという願いです・・・これは、多くの住民の「地域づくりの思い」と通じるものです。長年の地域振興会に携わってこられた中川さんだけに、その願いには深いものがあります。

さて、こうした思いで長年地域活動を続けてこられた中川さんですが、個人的な活動ではまた別な顔をお持ちです。それは、似顔絵の横にある「漢詩」でお分かりのように、詩吟の師範という顔です。平成5年から火土富江さんに師事して始められた「公益社団法人関西詩吟文化協会広島鷺津会」向原支部での事務局長を勤めておられます。

現在は、仕事の傍ら、この会の運営に尽力されています。関心のお有りの方は、下長田集会所での会合「毎月第一・第三月曜日」にご参加くださいとのこと。 (T.K)



左端が中川さん